第２回 栃木県総合計画懇談会「人づくり部会」

会議結果の概要

平成 22 年 9 月 10 日

栃木県総合政策部総合政策課

○第２回栃木県総合計画懇談会「人づくり部会」の開催結果

１　日　時　　平成 22 年９月 10 日（金）15:00～16:45

２　場　所　　本館６階　大会議室２

３　出席者　　藤井部会長、上野委員、塩谷委員、當麻委員、中田委員

〔県〕総合政策部長、総合政策部次長、関係部局次長ほか

４　概　要

事務局から「総合計画『とちぎ元気プラン』達成状況一覧」及び「次期総合計画における「人づくり」及び重点戦略の展開方向について」、「次期総合計画（第２次素案イメージ）」について説明し、意見交換を行った。

【発言要旨】

〔部会長〕

「とちぎ元気プラン」の達成状況、及び次期総合計画の「人づくり」の展開方向について御意見を伺う。まず、各ステージの議論に入る前に、全体的なつくり方やトーンに関して御意見を伺いたい。

前回の部会の共通認識としては、シルバー世代や大人世代が子どもを支援したり、面（地域）で助け合いながらみんなで育て育ち合うということがあった。「次期総合計画における「人づくり」及び重点戦略の展開方向について」にあるような線のイメージで描くのでは、そのニュアンスが生かせないとの意見であったが、今後、「次期総合計画における「人づくり」及び重点戦略の展開方向について」と「次期総合計画（第２次素案　イメージ）」の各資料の関係はどのようになっていくのか確認しておきたい。

〔総合政策部次長〕

「次期総合計画における「人づくり」及び重点戦略の展開方向について」は、次期計画の骨格に当たる部分である。部会等の御意見を踏まえて、計画の第２次素案レベルに記載したものが「次期総合計画（第２次素案イメージ）」となっている。ここには、今後、具体的な取組等も入ってくることが予想される。

〔部会長〕

それでは、「次期総合計画における「人づくり」及び重点戦略の展開方向について」の資料の方は、最終的に表には出ないという理解で良いか。

〔総合政策部次長〕

「次期総合計画における「人づくり」及び重点戦略の展開方向について」は、議論の一つの資料として考えていただければと思う。最終的な計画のイメージは「次期総合計画（第２次素案イメージ）」の方である。

〔部会長〕

両方の資料は言葉遣いが異なっているが、今の説明からすると、本日は「次期総合計画（第２次素

案イメージ)」を中心に議論することでよろしいか。

〔総合政策部次長〕

本日は、まず、基本的に骨格としてこれで良いかどうかという御意見をいただきつつ、「次期総合計画（第２次素案イメージ)」の具体的な成果指標や書きぶりについても御意見をいただければ有難いと考えている。

〔委員〕

「次期総合計画（第２次素案イメージ)」では、各ステージごとにこういう人をつくっていきたいということが記載されているが、総体的に栃木県の 30 年後をとらえて、今回５年間の総合計画をつくっていくとすれば、栃木県はこれからどういう人々であふれることを目指すのか。各世代を超えて総合的な人づくりに対する理想形。例えば「生きる力」は子ども世代、大人世代と分かれているが、「強くなければ生きていけない、優しくなければ生きる資格がない」のように、栃木県は強くてやさしい人づくりをしていくなどの大きな骨格があって、目指すのはそういう大きな目標なのだというものがあると良い。他の戦略も踏まえていくと、必ずどこかに核がなければいけないと思う。

〔総合政策部次長〕

次期計画も今世紀中葉を見据えて人づくりをしていくことを目指している。御意見を参考にしたい。

〔部会長〕

それは、この部会で何かこういうものということで具体的に出していかないと難しいということか。

〔総合政策部次長〕

県として人づくりの理想形をどういう形にするかというより、この５年間で子どもたちや若者、大人といった各ライフステージに応じてどういう政策を行っていくと、栃木県の展望が開けるかという視点から政策を検討していきたいと考えている。

〔委員〕

知事が県民の行くべき道筋・指針を出して方向性を出した上で、その部分にうまく到達できる形づくりをするのが総合計画だと思う。総合計画自体は、県庁内で各課がいろいろなものを出して積み上げ、それを総合政策課が精査してつくり上げていくものだと思う。そうすると今のような答えになろうかと思うが、もう少し大胆に、こういう人づくりをしていくのだ、栃木県をこういうところに持っていくのだという大目標を持つ形でいかないと。店をたくさん出しても、この店は何を売りたいのかがつかめないような総合計画にはならないでほしい。施策一つひとつは良いものができると思うが、そろそろチャレンジ精神や大きな未来への夢、希望を大胆に見せてもらえる良い。これを見る限りでは、「めざすところ」は単なる手法で目指すところではない。目指すところとしてこういう人をつくるのだということがないと、目的のない事業のようにとらえられると感じた。

〔部会長〕

私も同感である。例えば「次期総合計画における「人づくり」及び重点戦略の展開方向について」

の人づくりの「めざすところ」で、「県民一人ひとりが地域や社会の担い手となり」とあるが、「地域や社会の担い手となる」というのは、言葉としては「地域づくり、社会づくり」となるかと思う。自分だけではなくて世の中や人と関わり、社会に積極的に参画していける、主体的で責任のある市民を目指しているのだろうということは何となく受けとめられるし、この後の具体のところでもそういうことが書いてあるが、それをもう少しキャッチフレーズ的に打ち出すことも可能だと思う。みんなの目指す人間像のように、夢を持たせる書き方をどこかで工夫されると良いのではないか。

〔総合政策部長〕

本日、委員の皆様からは現在の素案イメージに対する御意見をいただいているところであるが、その中には、取り入れて検討していくもの、あるいは個別の分野計画に取り入れていくもの、さらには事業の進め方の中で対応させていくものと幾つかあると思っている。

今いただいた御意見は、政策の基本「人づくり」の「めざすところ」に関するものだったかと思うので、今申し上げたような形で意見を受け止めさせていただきたい。

〔委員〕

私も、目指すところというか、全体を貫く理想像のようなものが前面に出ていた方が良いと思う。これから何十年後かには地球全体が危機的状況になっていくわけであり、栃木県もその中にあるのだから全員が手を携えてやっていかないと。そんなに悲観的なことを書く必要はないが、そういった文言、イメージが何か必要だと思う。

前回、面で育ち合う社会づくりという意見が随分出ていた。図をつくるには平面だと難しいかと思うので、3D のような形で球のようなものをイメージして書くことはできないか。そうすれば、世代を超えて手を携えて理想に向かってやっていこうというイメージができるのではないか。

〔部会長〕

面でみんなが手を携えてやっていくということは、直線的なものでは表わせないと思う。これがこのまま計画に載るものではないということだが、あえて意見を言わせていただく。

「次期総合計画（第２次素案イメージ）」の中でも、時系列的な配置図になっていて、子ども時代からシルバー世代にきて、その間に子育て世代がぽんとあるというこの書き方は、面で育ち合うということが伝えにくいのではないかと思う。私なりにポンチ絵をつくり、たたき台として事務局に渡してあるので、ここでの議論の集大成として、面で、育ち、助け合い、支え合い、強く生きていくというイメージを書いていただけるよう検討願いたい。

〔委員〕

前回の意見で「個と公の調和」というのはすごく良い言葉だと思った。「個と公の調和」や「コミュニティの再生」が核にくるというようなことは、活かされているのか。

先ほどの、素案のイメージ図は、漫画チックでとっつきやすいという感じを受けた。一瞬見て分かりにくいと県民には理解してもらえないので、分かりやすく、10 年なり 20 年先を見据えてこれをつ

くってほしい。

〔委員〕

前回の部会の意見をかなり反映していると思ったが、やはり「人として生きる力をはぐくむ」の「人として」をつけ加えたというのは納得ができない。

また、子育て世代については、すべての世代の大人たちが関わるという意見が反映されていないのが気になった。

シルバー世代では、「高齢者の就労機会の拡大」と「経験を活かした社会参加の促進」とあるが、就労機会の拡大が先にくるのではなく、シルバー世代はまず経験を社会に反映してほしいというのが一番の希望である。

〔部会長〕

ここからライフステージごとの意見交換に入ることとする。まず「人をはぐくむ」の「子ども世代」であるが、「人として生きる」の「人として」にこだわる理由を伺っておきたい。

〔総合政策部次長〕

「生きる力をはぐくむ」を検討する中で、どういう生きる力なのかという議論があり、「人として」という言葉が入ったほうが良いのではないかということで、このような形にしたところである。

〔部会長〕

「生きる力」は単体で使われている言葉であるし、ここに「人として」と入れる意味はないと思う。これがあるとかえって奇異に感じるので、再検討願いたい。

〔委員〕

以前、子どもたちが地域の中でいろいろな体験学習をしていくことを狙いとして、ゆとり教育を導入した。ところが、地域の受け皿がない状況で走ってきてしまい、それで学力低下ということになった。「生きる力をはぐくむ」とか「人をはぐくむ」というが、子ども世代では勉強することが生きる力をはぐくむのかというと、全くそうではない。もちろんそれも大事だが。地域とのつながりが非常に重要だという部分で指標を何か出せというのはとても難しいと思う。例えば、小学生でも様々な形でボランティア活動や社会参加しているところがあると思うが、県教育委員会の生涯学習課などで把握している指標が何かないだろうか。

〔教育次長〕

子ども世代というと小学生、中学生であり、ボランティアは校外活動になるので、大体は親と一緒ということになる。若者世代に入ると、高校生では独自に JRC という部活動があり、例えば宇都宮市のメインストリートの掃除や災害時等のボランティアなどが盛んに行われている。

今まで、一般のボランティアは育っているが、それをコーディネートする人がいないという課題があり、生涯学習課でもその部分を何とか強化したいという意識を持っているので、今後何らかの改善策が出てくるものと思う。指標については、生涯学習課に伝えたい。

〔部会長〕

ここでは、取組の方向に記載されているそれぞれが、知徳体のバランス良く書かれていると思う。指標として「授業がわかる児童生徒の割合」は知、「いじめ解消率」は徳で、あとは徳か体のところで何かということだと思う。これから栃木県はこういう社会を目指していきたいということが伝わる指標があると良いので、「いじめ解消率」は今回はやめて、他のもので代替した方が良いのではないか。

また、１つ目の文章のニュアンス的なことだが、「『読む、書く、計算する』といった基礎的知識や基本的技能を身につけられるよう、確かな学力づくりを進めます」について、「自ら学習に取り組む意欲を高め」は教育基本法と合っているので良いと思うが、「地域の力を活かしたきめ細かな指導を充実し」というのが少し気になる。地域の力を活かしてというと学校支援ボランティア等になるが、きめ細かな指導を充実することは、専門家である先生方に頑張っていただきたい。地域として学校を支えていくということはもちろんあるが、「確かな学力づくり」は先生方と家庭のタイアップでやっていくものなので、そのニュアンスを抜かさないように、もう少し考えてほしい。

次に、「若者世代」について御意見をお願いしたい。

〔委員〕

「新規学卒者の就職内定率」という指標について、県外に就職しても就職率にカウントされるのか。例えば、宇都宮大学の学生が東京に就職しようがアメリカに就職しようが就職率としてカウントされるということで良いか。

〔教育次長〕

そのとおりである。

〔委員〕

今、大学生は就職口がなくて大変苦しんでいる。少し前であれば、つまらない会社には行かないで自分で起業しようと思う人がたくさんいたと思うが、今は景気が悪いということで非常にダメージを受けている。起業教育、起業精神がなくなってくると国は衰退していく。これは各世代にもあるかもしれないが、特に若い世代でどこか安定したところに入りたいということばかりが念頭にある。何かものを生み出すという起業家精神は大切だと思う。行政からするとどうしても「就労支援」という言葉になってしまうのだが、就労支援ではなくて、起業家育成、起業家に対する支援や環境整備も必要ではないかと思っている。

〔委員〕

先ほど中高生をコーディネートする大人の人材不足の話があったが、県や市町村で生涯学習コーディネーターの養成を毎年やっている。それが十分活かされていないようなので、シルバー世代をそこに登用すれば解消できるのではないか。

〔教育次長〕

ボランティアを養成しても活躍する場がない、それでコーディネーターの育成を考えているという説明をしたが、中高生の場合は、中心は部活動や学校になるので、直接社会にということは少ないと思う。いただいた意見は、生涯学習課に伝えたい。

〔部会長〕

指標を就職率や内定率にすると、雇用環境にかなり依存することになる。私たちが目指す人づくりは、そういう厳しい状況を生き抜いていく人間をどうつくるかというところに視点があると思うので、何かもっと違った指標があれば良い。他のプロジェクトとの兼ね合いになるかもしれないが、就職内定率は別のところで挙げるべきものかと思う。

今さらで申し訳ないが、「可能性をはぐくむ」という言葉がフィットしない。はぐくむというのは育てるということで、もっと言うと、どういう力をつけるかということである。ここでは「可能性をはぐくむ」となっていて、若干ずれている気がしてならない。可能性は拡大するとか、広げてあげる、場を設定する、機会を広げるという意味である。今の厳しい社会で、へこたれず、あきらめず、強い心を持って生きていく若者をつくっていきたいと思っている。その実際の力として、勤労観や職業観ということでキャリア教育が挙がっている。「意欲を高める」とか「自覚を持つ」というものを活かした言葉にならないだろうか。先ほど起業家精神という言葉があったが、チャレンジ、前を向いていく強い力、実力と精神力、技術、能力の総体として、うまくここにはまる言葉があれば検討願いたい。

〔委員〕

人づくりに関しては、成果をはかれないものがほとんどである。達成状況を考えてから計画をつくるのではなくて、若者世代も就職内定率が先にくるとキャリア教育といったことになってしまうので、責任ある社会人になる、社会に貢献する、社会づくりに参加するということが先にきたほうが良いと思う。

〔部会長〕

指標は大事だが、これですべてを表すとなると、他の大事なものが消えてしまう可能性があるだろう。

次に「大人世代」について意見交換したい。ここは、成果指標が示されてないので、良いアイデアがあればお願いしたい。

〔委員〕

ここの指標は大変難しいと思う。時代とともに変わってきていると思うのは、鉄鋼屋でも何屋でもこれをつくらせたらこの人の右に出る者はいないという熟練工も、時代とともに機械化、精密化されパソコンが入ってきて、幾ら熟練工で腕が良くてもプログラムを組めないと使い物にならないということになる。例えば大人世代でも、自分できちんと目標を持って良い仕事をしていても、時代の変化とともに環境が変わって、結局ドロップアウトさせられてしまうということがどこにでも起こっている。変化に対応した就業支援、キャリアアップも視点に入れてほしい。

先ほどの起業家の話は、実は大人世代も同じである。起業家を支援する、社会が起業家を認められる地域づくり、人づくりが必要である。

〔総合政策部長〕

人づくりは計画の全般に関わり、３つの戦略にも重複する部分が出てくる。今の意見は、再教育をして新たな状況に対応できるようにしていくリカレント教育を企業の中でもやっていくということかと思う。成長戦略部会でも、これから一番肝心なのは人材であるという指摘があったので、それをどこで取り上げていくかという検討について事務局に任せていただければと思う。

また、創業というのは、必ずしも若手だけではなく、途中から、あるいは退職者が新たに創業するなど非常に幅広い。これも成長戦略の中で、創業支援による活力づくりについて検討しているので、同様に取り扱わせていただきたい。

〔部会長〕

大人世代の中に、個人としてのキャリアアップとかチャレンジ精神ということはあるが、社会貢献的なことが書かれていない。大人が地域社会の中にもっと出ていって地域づくりをするというイメージが少し足りない気がするが、いかがか。

〔総合政策部次長〕

「人を活かす」の中に、社会参加等が含まれている。

〔部会長〕

「子育て世代」についても併せて意見を伺いたい。

〔委員〕

この世代も指標を設定するのか。

〔総合政策部次長〕

この部分は事務局でも頭を悩ませているところであるが、全てのステージに指標を設定しなければならないというものではないと考えている。

〔委員〕

私もそう思う。最近事件にもなったが、母親が夜仕事をするために、子どもの保育を放棄し、友達の家に預けているといったようなことがたくさんある。ほとんどが離婚を機にそうなっているが、親力、親の子育て力、親業力という部分をきちんとしていかない限り、こういうことはどんどん増えてくると思う。これは東京、埼玉だけではなくて栃木県にも大変多い。

そういう意味では、ここの指標は非常に微妙で、ここに指標を入れるのはどうかという気がしている。

〔部会長〕

そういう意味でいうと、実は子育て世代は大人世代より若い時代から見ないといけないと思う。虐待の問題も、かなり若い層に集中しているということが事実としてある。子育て世代の取組の中で、

「将来の親となる子どもたちの子育て力をはぐくむ」と書いてあるが、具体的にはどのようなイメージか。例えば高校生にそういう講座を開催するということか。

〔教育委員会総務課教育政策担当〕

生涯学習課で平成 17 年度から「親学習プログラム」というプログラムをつくり、普及啓発活動を行っている。その中で、現在子育て中の保護者に対する参加型学習プログラムもあるが、将来親になる高校生や大学生を対象としたプログラムもある。さらに、それを実際に指導するファシリテーターの活動を促進するために親学習プログラムのアレンジ版も新たに作成した。

〔部会長〕

書き方としては、「ともに」となると強くなるので、それなりの中身がないとバランスが悪い。親の子育て力に「加えて」ということになろうかと思う。

〔委員〕

「将来の親となる子どもたち」の「子どもたち」は文言としてどうか。「子どもたちの子育て力をはぐくむ」というと子どもだけになってしまう。そうではなくて「若者世代」がよろしいのではないか。

〔委員〕

総合計画そのものとは関係なくて恐縮であるが、PTA 等で行われている親学は内容自体が薄い。せっかく聞きに行っても、どこかで聞いた話ばかりである。今は他に学ぶところもあり、意識の高い人はパルティや市民大学、県民カレッジといろいろな場所で学んでいるので、もう少しレベルアップしてほしい。

子育て世代のところでは、「はぐくむ」が多用されていて、使わなくていいところにまで「はぐくむ」という言葉が使われている。若者世代も、「可能性をはぐくむ」ではなくて「可能性を広げる」ではないか。「次期総合計画における「人づくり」及び重点戦略の展開方向について」の資料の方が「親の学習機会の充実」、「将来の親となる子どもの学習機会の充実」、「家族のきずなの強化」など、分かりやすい。

〔部会長〕

工夫して分かりやすいものになるよう検討してほしい。

この部分は、もう少し書き込みたいとも思ったが、安心戦略の「安心の子育て環境　プロジェクト」の中で「地域における子育て支援」が記載され、指標もきっちり書いてある。この部会ならではのインパクトのあるものを何か書きたいという気がしている。

次に、「人を活かす」の「若者世代～大人世代」について意見を伺いたい。

〔委員〕

「人を活かす」なのか、「人をはぐくむ」なのか、あるいは別の戦略部会になるのか分からないが、日本と欧米の寄附が、欧米は７％ぐらい、日本は 0.1～0.3％ぐらいと言われている。この寄附文化

を広げていく。社会参加や社会貢献において、寄附文化は避けて通れないのではないか。人の意識の問題なので、５円だろうが 10 円だろうが社会貢献活動に寄附していこうというのが本来、寄附文化の成長の狙いだと思う。現計画にもどこかに入っているのではないか。寄附文化が入っていないとすれば、どこかに指標として入れられないものかと。大胆なことを言わせていただくと、社会貢献活動が人の参加だけになっているが、企業や個人がお金を寄附することも社会貢献に対する取組で、家計率何％といったことは指標になるのではないか。

〔総合政策部長〕

力は出せないけれどもお金は出せるという人もいる、それも一つの協働のあり方だと思う。住民との協働という部分において、そのニュアンスをどんな形で取り入れるかは検討していきたい。

しかし、提案あった指標化については非常に難しいかと思う。現在、県には寄附ではないが「ふるさと納税」というものがあり、始まったときにはすごい金額を出された人もいて、最初は全国一の額であった。

また、このあとの項目に関係するが、文化振興に関しては「文化振興基金」や杉並木財団が持っている基金に対する直接的な寄附もある。他にも、NPO がお金を集めて、それでユニークな活動をする団体に支援するなど、さまざまな仕組みがある。それを単純化・数値化して他県と比べてどうかと、ニュートラルな数字として設定できるかどうかは正直難しいのではないかと考えている。

〔部会長〕

「社会貢献活動参加率」の数字は、栃木県の世論調査からのものか。

〔総合政策課課長補佐〕

栃木県県政世論調査のデータである。

〔部会長〕

次に「人を活かす」の「シルバー世代」について意見を伺いたい。

ないようであれば、最後になるが、「文化を通じた人づくり」、「スポーツを通じた人づくり」について意見をお願いしたい。

この文章だが、文化を通じてどういう人づくりをするのかが書かれていない。「生涯を通じて文化に親しむ人をはぐくみます」という答えになってはいるが、この辺の言葉遣いも少し気になるが。

〔委員〕

文化とスポーツで、スポーツは全世代的にあるので、スポーツを通してこういう人をつくりたいという精神論などを。健全な体というのは当たり前だが、もう少し言葉が多くないと。精神的な部分の育成など。特に総合型地域スポーツクラブは社会貢献的な役割が非常に強い。それを見据えて、地域づくりの一つにもなっていると考えて表現していただけると良いのではないか。

文化については、若年層になるにしたがって文化・芸術から離れてしまっている。各地では文化協会をつくっていろいろやっているが、ほとんどは 80 歳前後の人たちがやっている。もう少し若い世

代や中学生、小学生も入っていけるように。「世代間のつながりを深めていけるように」と書いてあるが、もう少しおもしろい指標や若年層に向けた展開の仕方を考えてほしい。

〔部会長〕

取組の方向には「世代間交流の場づくり」と記載してあり、まさしく地域を基盤にしたということが書かれているので、整合性をとっていただければと思う。

〔委員〕

前回の部会で、若者が戻ってこられるような誇りある栃木県という意見があった。それをもう少しクローズアップしても良いのではないか。大人がそれを発信していこうという意見も出ていたと思う。たたき台ということでそっけない感じにできているが、仕上がりの時点では、このページには栃木の誇る文化や芸術、スポーツをアピールする写真などは入れることになるのか。

〔総合政策部次長〕

まだ具体的な構成は決まっていないが、枚数等の調整をしながら、目で見て分かりやすい計画にしていきたいと考えている。

〔部会長〕

時間になったので以上とするが、事務局には、本日の議論を十分参考にして第２次素案の検討を進めてほしい。今後、部会間の調整・検討の必要が生じた場合は、部会長一任とし、事務局と他の部会長と調整することで了解いただきたい。

５　その他

第４回総合計画懇談会の開催予定　　日時：10 月 29 日（金）午後２時から

会場：県公館　大会議室